愛板

愛知県板金工業組合

名古屋市昭和区北山町3−8−6
電話 732−1226
発行 広報委員会

組合創立25周年記念 特集号

記念すべき年を迎え

理事長　平野　弘

我が愛知県板金工業組合は本年めでたく工業組合化25周年の記念すべき年を迎え、風薫る5月29日愛知県産業貿易館の国際会議場に於て、愛知県知事殿始め関係各方面から多数のご来賓のご臨席のもとに、25周年記念式典を、簡素ながら厳粛に挙行することが出来ました事は、まことに感謝にたえないところであり、関係各方面の方々、並びに組合員各位に対し心からお礼申し上げます。顧りみますと当会は愛知県板金組合発足以来半世紀近くにわたる歴史はまさに感無量のものがあります。ここに記念事業の一環として記念式典諸行事開催の事績を取りまとめ、また過去25年のあゆみを顧りみ、その活動状況を集約して「記念特集号」として発行する運びにいたりました。記念誌と申すには余りにも素誌に過ぎますが、これに依り永年にわたって尽力されました先輩諸氏の足跡を振り返り現在という接点に立って新な時代に向い一層の努力を重ねていきたいと存じます。ご協力いただいたみなさん、広報委員の各位に対し深甚なる謝意を表します。終りにあたり業界みなさまの一層のご繁栄をお祈りいたしご挨拶といたします。

副理事長　村上　章

愛知県板金工業組合が設立され、雨来星霜を重ねてここに二十五年今回記念式典を挙行できますことは、誠に感慨ひとしおで、組合員一同慶びにたえない次第です。

こうして、我々組合員が板金の道を歩む時、歴代理事長始め、役員の御尽力とご指導により今日の発展をみました事に深く感謝の念を持って居ります。

今回愛知県知事表彰を始め、名誉ある表彰を受けられた各位は、多年に亘り組合事業に功労のあった方であります。今日迄の御精進に対して、敬意を表しお喜びいたします。

今後共、健康に留意され、板金業界のため御尽力下さる様お願い申し上げます。

一口に二十五年と申しますが、オギャーと生まれた赤子が成人式をすませ、立派な二十五才の盛年となったわけであり、最も活躍出来る年令に達したのであります。

今後、愛知県板の一層の発展を期待出来るものであると心強く感じております。

此の式典を契機に組合員一同団結して前進しましょう。

最後に、今回の式典設営関係各位の努力に心より感謝の意を呈すると共に、組合員各位の御繁栄と御健勝を祈念いたしまして、私の喜びの言葉といたします。

栗田政雄

組合が創立して25年と知らされて感慨無量である。思えばその当時愛知県板金工業会から愛知県板金工業組合設立に至ったのは確かに昭和41年の春であった。理事長に山口音吉氏、そして朝日、柴田両君と私等が常務理事として運営に当った。それから一年、42年の3月全国板金工業会の米内理事長が亡くなられた、その後任に愛知県板金工業組合の山口理事長が全板の理事会で満場一致で推された。山口さんは既にご老令、東京へ行っての全板の理事長職は激務である。従って後顧の憂いのないようにとの配慮から愛板の役職の変更がなされ、柴田副理事長、私の専務理事、朝日氏以下四名の常務理事がそれである。それから25年、山口、柴田、朝日の三氏はじめ当時の多くが他界されている。私は現在健在でこうした思い出を書きつつその以前の25年に思いを走せざるを得ない。即ち第二次大戦以前の事である。所謂経済統制の時代で、法による工業組合の組織無くては材料の配給が受けられなかった。組合の創立は確かに昭和14年のことであった。創立総会は今の産業貿易館の西館、当時の県商工館である。理事長は大脇氏、専務理事に田中氏、理事は私を含めて六名。私はその翌年に専務理事に就任したが、その当時の役員の殆どが過去の人である。特に思い出されるのは、東京板金工業組合の中山理事長が奥様危篤の中を敢て臨席されたことと肌寒い二月の会場が熱気でむさる程の熱弁で業界の有り方を示された祝辞である。出席した三百人程の組合員が水を打ったような感銘を受けた獅子吼であった。書き出すと思い出は走馬燈のように尽きない。職業訓練も最初は愛知県板金工共同技能者養成所であって、設立当時、千種の佐橋さんが仕事の関係で名古屋刑務所に傅手があり、その縁で訓練生の技能指導に同刑務所の作業技官の三氏を招き得たことがあった。刑務所の職員は国家公務員で講師に依頼するのは困難であったが職業訓練の援助との名分によって成功したのである。私はその打合せ等で当時吹上にあった刑務所へ度々足を運んだ、刑務所へ行くのは余り気分の良いものではなかった。ハイヤーで行先を刑務所と言うと運転手が後を向いたこともあった。「愛板」の執筆編集部の思い出は尽きないが思いつくまま筆にした次第である。最後に組合の発展と役員のご努力をお願いして終る。

創立二十五周年によせて

東三支部

森田廣次

昭和41年12月7日に全板連工業組合の設立が認可されて、もう25年にもなるのですね。

この日の板金新聞「展望台」囲みには、新時代の板金業の進路を指示解明しております。即ちこの連合会からはずれることは、板金業界から消えてゆくことになると警告しております。にもかかわらず東三支部は45年に愛板総代会の席でのトラブルから幹部の不快感だけで組合員全員に詳しい説明もなく総脱退の判を押さしたのです。この行動は連合会設立に米内氏と共に苦労された山口理事長の顔に泥を塗る行為だったと思います。

かくて東三支部は井の中の蛙となり業界から消えて行く道を歩むことになりました。私は同志と計り46年度から朝倉幸一氏を組合長として役員を刷新しました。我々は現状では技能検定や職業訓練の運営にも支障を来たす事は必要と危機感を抱きなんとかして愛板再加入の方法はないかと模索しました。

47年知多支部の青木氏、近藤氏はじめ幹部の皆様のお骨折りで、成岩公民館内で愛板柴田理事長以下幹部の方々と東三から朝倉組合長以下数名で再加入の意見交換を致しました。こうして再加入の一歩を進めたのであります。東三の旧幹部の説得は困難を極め、結局全員再加入は難かしく、現役員（部長以上）34名が代表として名を連ね愛板への負担金、組合費は組合の会計から一括納入という方法で承認されました。かくして愛板の仲間に入れて頂き技能検定試験もスムーズに実施できる様になってホッとした訳ですが、この一括加入の方法は正常ではないので、最近なにかとトラブルが出て本部の皆様にも迷惑をかけて恐縮です。良い解決をと願っている今日です。

豊田支部

松井住

『全板樋』

全板樋と言ってももう皆さんお忘れの方が多いと思います。又若い方達には御存知ない方もおられると思います。昭和四十九年全板は塩ビ・五社の協力に依り全板樋を作りました。型状は半径樋内部両側に強度補強の為覆輪があると言うものです。

全板連では全板樋普及第一弾として静岡、愛知、三重、県板の担当者を全板会館に集める事となり故柴田愛板理事長より私が指名され東京に行く事になりました。

当時愛知県板には委員会制度が無く常務理事でもない平理事の私が行く経緯は今でも分りません。東京には戦前二、三度しか行った事がなく土地不案内。丁度其の年、娘の入試で東京に一週間行っていた家内が案内役。

新幹線、山の手線、浜松町駅、それから都営バス。途中浜松町駅前の回転寿し屋さんを見て吃驚仰天。今では何処にでも有ります。

会議は一三時から始まり栗原全板理事長（福島）より三県板は樋の使用量は全国でも一番多いので、卒先して協力する様にとの事でした。

柴田理事長の命令は愛知県板は全板樋其の物に反対だから断って来いとの事でしたので、其のむね発言したところ栗原全板理事長烈火の如くの怒り様で二の句が告げませんでした。全板樋受け入れの件は栗原理事長の前の全板理事長が、故山口音吉氏（愛知）であったので、山口理事長当時より話があったかも知れません。

後日割当量だけは受け入れましたが、各支部長さんは大変苦労され消化されました。今では昔話になりました。

後記、問屋さんの話によると今でも使っておられる方があるとの事認識不足をお詫びします。

知多支部

近藤良一

昔を偲んで

厳しいシベリヤの冬を二度過ごし、ナホトカ港から懐かしい日本に帰って来たのが昭和22年5月でした。戦後のどさくさで、家業のブリキ店も、開店休業の有様。それでも生活のため、古い一斗缶や錆びたブリキ板を集めては　物を作る、というところから商売を始めました。これが戦後の私の出発です。車など夢という時代、唯一の足である自転車で、各地の問屋を走り回るのが日課となっていました。あれから40有余年、問屋には商品が溢れ、何時でも電話、いやFAXなるもので間に合うようになろうとは、思いもよらないことでした。今や板金業も、作る時代から取付ける時代へと変わりつつあります。子供会の貴重な収入源であった廃材が、まさかお金を払って処理してもらわなければならなくなるとは、物の無い時代に育った私には、どうにも理解出来ません。

さて、先日組合より原稿のご依頼を受け、いったい何を書いたらよいのかと、頭を悩ませているところですが、鉛筆を持ちながら考えているうちに、つい昔を思い出し、前置きが長くなってしまいました。思い出しついでに私が知多板金加工組合の組合長を努めさせていただいていた時のことを書かせて下さい。

昭和32年頃のこと、私は、板金組合の税金のことで、税務署へ行くことになりました。当時、税務署へ行く時はボロ服を着て行って、いかにも儲からない様な顔をするものだ、と知人に忠告されていたにもかかわらず、私はわざわざ服を新調して出掛けました。案の定税務署員は、開口一番「いい服ですね。板金組合はよほど儲けが多いとみえますね。」そらまた、私は予定どおり「何をおっしゃるのですか、私は組合の代表です。代表としてお伺いするのにボロ服を着て来たのでは失礼ですし、第一組合の恥です。私は、ずいぶん無理をしてこれを新調しました。経費として認めていただきたいくらいです。」と切り返した。税務署員がどう思ったかは知る由もありませんが、以来、何度となく着て行ったその服のことは一度も言われませんでした。今では笑い話として話せますが、少々のへそ曲りは相変わらず、まだまだ元気に頑張ってやって行きたいと思っています。

清水　功

愛板創立25周年を迎え本当におめでとうございます。20周年はつい昨日の様に思われ月日の過ぎるのは実に早いものです。この節目に寄稿出来て誠に有難い次第です。創立以来愛板の指導宜しきを得て又愛板新聞の広報力もすばらしく県内隅々まで県板の活動及び組合員の状況がよく知れ渡り、お互いの心構えも時代に遅れず前進し、組合員であることを誇りにしています。創立25周年と私の思い出を一寸振り返って見たいと思います。間違いも多々あると思いますが宜しく。私はみんなに勧められて昭和40年頃で技能検定一級を受けた頃で山口愛板理事長時代です。八十才に近いとかでしたが元気で全板連創立の功労者で当時も全板理事長として活躍して居られました。私も全板大会に初めて参加しその実力の程を感じうれしかった次第です。又全板大会で特に私は我々の代表は中央官公庁に直結し業界発展を計っておられる事がよくわかり感激しました。次は柴田理事長時代です。職業訓練校創立以来校長として技能検定では技能士会々長としてこの道一本の実力者、お蔭で愛知県の技能士の数は日本一で現在の業界に大変貢献されました。実に先を見ておられたと感謝しています。そして福島県の全板大会に参加した時、この県の青年部が揃いのハッピ姿で花笠音頭で迎えてくれまして「あぁいい事だ」と感じ又その他色々事業をやっているのを見て我が愛知も早く青年部が欲しいなあと実感した次第です。その次は日比野理事長時代です。私も役員の末席を汚す事と相成りました。当時は前理事長時代に計画されました県板会館の建設であります。日比野理事長の格別のお骨折りでようやく現在地に完成したのです。「狭いながらも楽しい我が家」、実に精一杯でしたがやっぱり一寸狭いですね。いつ〳〵時代か大きく飛躍するでしょう。その時はこだわらずやって下さい、とこんな気持です。次に青年部のことです。相前後して漸く県青年部が出来ました。県内隅から隅まで大勢の方が加入され、名実共に日本一の青年部が出来ました。以来全板グランプリを初め数々の行事に参加され板金愛知を全国に知らせられ有難い事でありました。又久しぶりに県青年部の今年度の総会に出席する機会に恵まれ益々盛大に又熱心な活躍ぶりに感激しました。扨て前後しましたが現平野理事長時代に入ったのであります。各位には総会や新聞でよく御存知とは思いますが一番変った事は何と言っても県に対して認可団体に取り付け、その上中小企業団体中央会の実施団体となった事だろうと思います。中々お金のかかる大きな事業をやり遂げられました。今年も又何か始まる事でしょう。各位には多忙な毎日なれど出来るだけ御協力申し上げようではありませんか。お願い致します。何年か先にはきっと良い事に繋がることでしょう。又平野時代に入って福の神が来た様で建築業界も不況を ぬけ出し以来三年続きの好況でまさに我が世の春です。皆さん安全第一に頑張って下さい。

杉浦　武

創立25周年記念を風かほる5月盛大に施行された事を心からお祝い申し上げます。先日県板より愛板特集号に何か思い出をとの案内で誠に光栄と存じますが、筆不精で文にならない私の回想ですがお許しを頂き何か一つ思い出を記したいと思います。思えば25年。人で云えば活力あふれる青年期ではないだろうか。昭和40年8月に県板に加入して理事を受けて以来56年常務理事を辞退するまで15年の間素晴らしい出合いの人生を送る事が出来た事を先ず感謝し心から先輩各位にお礼を申し上げたいと思います。初代山口理事長に誘われ柴田・日比野の三代理事長に育てられ思い出は尽きないが心に残って居る事を一つ記して見たいと思います。けれど「肥ってかぶとの緒を締めよ」ばかりでなく、たまにはゆっくり体を休めて下さいよ。では又の機会までお元気で。さようなら。特集号に寄せて

53年4月始めと思うが柴田理事長による出張常務理事会が山中温泉聴泉閣で行われた時の事である。二日間の日程で会議をやり、柴田理事長の見解に対し各理事より壮烈な意見が交わされ結論に達せずに終った事があり、その折の常務理事の中に故前田専務理事も居り話をまとめようと努力されたがまとまらず深夜宿の布団の上で寝る事も忘れて激論を交わした事は今でも忘れがたい思い出の一つである。私などは一番若輩であったが、この会議に参加して各理事が組合を愛する為に熱気を帯びた一語〳〵に組合に対する愛着を一層高め得た一日であった。その年の総代会で柴田理事長が辞任され日比野体制と変ったが、尚一層技能士会との合流と鈴木事務局長による組織委員会の総務委員長を申しつかり任期中には様々な出合いを受け勉強させてもらったものである。県板会館建設に伴う色々な問題を克服してついに54年暮れに完成出来たのも組合員の協力は勿論各役員がそれぞれの立場から努力された賜物であると思う。25年間に受けた恩恵は自分を知り仲間を知り苦楽を共にして現在までこれたのも素晴らしい出合いがあったればこそと思う。時代の変革は又一段と厳しくなる折から21世紀に向って尚一層魅力ある組合に発展されん事を願い将来に大いなる夢を託して私の思い出の一端と致します。

が厳しくなったのも此の時期であったと思う。しかしその後各役員の理解と建設的な協力によって現在の技能委員会として一本化された事は誠に有り難い事である。今私はあの厳しさと頑固で通った柴田理事長に技能士会役員時代から長い間教え育てて頂き、時には気軽に相談に乗って頂いた事を思うとあの厳しさの裏には責任と弧独な淋しさを持って居られた事を思い、若気の至りで義理をはずした行動を取った事を今さらながら恥かしく思い故人となられた諸先輩の方々の御冥福を祈りお詫びをする気持で一杯である。以後日比野理事長と共に各常務理事

東三支部　原田忠治

大正末期に東京府板金工業組合理事長に原田最一郎さんと言う方があったそうです。大変太っ腹な方で、現在の板金業者は親方から弟子へ弟子から孫弟子へと、家伝とか必伝とか言って我が家の技術を他の業者に大事大事に伝えて居る傾向がある様だがこの様な心では将来の板金業界の発展はあり得ない。何かもっと学術的な方法で書類又は図面を見れば日本国中の同業者が同じ物を作れる方法はないものかと文部省に出掛けたそうです。文部省ではそれは労働省の仕事であると紹介してくれ、労働省では今お茶の水工芸学校で藤田美代作先生が板金製図の研究をして居られるからと紹介され、藤田先生と相談の上、夜間週二回一年間修了の製図実技講議を引き受けてくれたそうです。原田がこの講習を受けたのは昭和14年4月から一年間でした。当時は今と違って夕方暗くなる迄働くのが普通でしたので、夏などは現場から工芸学校に走っても（自転車）着いた時はもう半分講議が済んだ位ですので全部ノートするかしない内に終りました。帰ってから復習すると夜が明ける事もありました。弟弟子伊藤繁雄君（原田より五才下）も共に受講しましたが、4月70余名いた講習生も修了する時は43名でした。伊藤君はその中で20番目位だったと思います。その後刈谷の日本電装に入社しましたが25名の課長さんの内24名が大学卒業生で、小学校卒業生は彼一人だったそうです。技術専門校の皆様頑張って下さい。製図実技をしっかり身に付ければ大学卒業生に勝るとも劣る事はないと思います。その後大東亜戦争に巻き込まれ昭和16年よりマレーシャ・シンガポール敵前上陸・ビルマ・印度・ビルマと転戦から激戦が続き17年7月ラングーンで編成された倉地分隊20名で生きて内地の土を踏んだのは原田一人だけです。21年7月広島原子爆弾が落された事は知らなかったからです。その他の大都市も焼野原でした。無中で祖国再建を願って働き気が付いた時は数年過ぎて居ました。昭和28年には訓練法が制定され33年より施行されましたが、それより先30年度から東三板金は当時の足立永治、村田藤二氏等のお骨折りにより、職業訓練補導所を開設されましたが当時は教科書指導書等も無く原田が14年に受けた製図ノートより抜粋して青写真（森田氏が製作）それに基づいて始めた様な事でした。33年には訓練校となり、44年度より東三板金高等職業訓練校に。同時に技能照査試験が始まりこれに合格した者は二級の学科試験が免除になる特典がありました。この特典は役員さんを始め講師指導者の願いであり又夢でした。52年に豊橋高等職業訓練校となり、現在は豊橋高等技術専門校と名称は立派になりましたが果して教育内容が名に恥じない様な内容であるかどうか振り返って見ると私はこれから…、時代に遅れない様に研究して行く必要があると思います。33年より検定試験が始まり最近では青年部や一級技能士が同じ課題で技を競う事が出来るのは、その元を初めて下さった方がいたのです。原田最一郎先生を始め藤田美代作先生、理事長さん、役員の皆々様のお骨折りの賜物と深く感謝致します。

江南支部OB　坪内正夫

この度、愛知県板金工業組合が創立25周年を迎えられます事を心より御祝い申します。以前よりあった任意の組合が、公認の組合として発会式のあったのが昭和40年8月16日、会場は名古屋市鶴舞公園内市公会堂の三階であったと記憶して居ります。当時私財の一部を組合に寄附し、組合の組織強化と拡大の為に日夜奔走されて居た温厚な山口理事長はじめ文部大臣表彰も受けた、訓練校校長の柴田さん、その他の役員方の並々ならぬ苦労のあった事を今新たに思い出して居ります。

当時の私達業者は、同業者間の競争が激しく、すべてが手造りの時代の事とて夜から夜へと働いても決して楽な生活は望めませんでした。そんな時、私の友人で訓練校の先生でもあった清水さんの勧めで熱田区の組合に加入して、始めて戦前の組合にはなかったと思われる職業訓練校指導員免許制度、講習会等のあるのを知り「名古屋の組合」は進んで居るなぁと思ったものです。「ようし！江南にも組合を造るぞー」と心に決めたのもその頃でした。それからは毎夜の様に同業者の間を説いて廻っても、戦前の組合へのイメージが悪く「組合なんてあったとて、何の恩恵もない。」と言う感じで、中々皆さんに理解してもらえなかったものです。この時組合本部より私に、講習の通知が来たのを機会に、当地の業者の資格のない者も参観出来る様にと、時の訓練校校長「柴田さん」に御願い、全員の参加と組合の結成を条件に、参観を許可されて全員が参加してはじめて皆さんが、戦後のあり方と必要性を認識して頂けた様子でした。そして、昭和35年7月に15名の賛同を得て、愛北板金研究会が発足しました。他の組合よりよく「江南にあって愛北であり、組合でなく研究会か」と聞かれましたが、これも将来愛北地区は一つになるとの願望と、戦前の組合への不信を除く為の苦心の命名でした。その後、犬山・小牧・江南三市の役員方の協力に依り昭和37年に愛北板金協同組合が結成されましたが、さらに進んで尾張地区八市一町に依る尾張板金協同組合連合会が、度び重なる協議の末昭和46年1月に結成されました。一部の役員の存続論のあった愛北板金協同組合も、尾張板金協同組合連合に吸収し発展的解消しました。その後、当時常務理事であった「後藤さん」の発案による他業種も交えての尾張建設業協同組合と職業訓練所の設立がありましたが、手元に資料なき為割愛します。「息子を高校に行かせる事は出来ないが、せめて訓練校に入れたいから」と依頼されたり、あるいは静岡県には訓練校がないから、息子に後を継がせる為にもせめて訓練校に入れる様にと、県外の友人より弟子入りを依頼されたり（当時訓練指導員の免許証のある親方の子弟以外入校できなかった。）あるいは、友人が「施主と喧嘩して集金が出来ぬから」と頼まれたので、相手方に組合をたてに話し合い、和解した事等目に見えぬ所でも組合の威力と効果のあった事も遠い思い出の一つです。近年建築板金業も製品のデザインの近代化と資材の高級化には、目を見張るものがあります。もうこれからは私達の昔通った激しい競争はないでしょう。家外労働者にようやく陽の当る時代が来ました。皆さん協力一致、健康に気を付け頑張って下さい。

後継者なき為すでに廃業して居る私ですが、最後に重ねて、愛知県板金工業組合の創立25周年を心より御祝い申し上げます。

支部だより

知多支部献血グループ
恒例の献血活動!!

あなたの温かい心。それは社会にとって大切な財産です。

血液は心。心と心のきずな……献血というあなたの善意に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

当知多支部は事業計画に基き、年間行事の一環として実行委員を設け、支部組合員に呼び掛けを行い去る6月12日㈫午後一時より半田市内の武豊屋株式会社の御好意により実施致しました。幸いにして天候に恵まれ、大多数の提供者により目的を達成する事が出来少しでもお役に立てばと念願し実施した。又今回も実行委員のアイデアによりハズレなしの福引付、参加者には満足感があふれていた。

尚7月は「全国愛の血液助け合い運動」の時期に入りますので、最寄りの会場へ是非どうぞ。

今回の事業にお骨折りを頂いた関係者の方々には厚くお礼申し上げます。

沼澤

全板大会参加をかねて
親睦旅行

県青岡崎支部では旅行をかねがねしたいと思っていたが、なかなか実行できなかった。しかし、この度新潟への旅行に行く事ができました。5月16日17日と第42回全板大会が上越市で開かれ、その時のアトラクションに玉川堂の門外不出といわれる燕鎚銅器（つばめついきどうき）の実演が企画されているというのでその見学を主とし親睦もかねた一泊二日の旅行です。準備計画が遅れ気味で、平日のため人員が心配でありましたが、組合員の皆さんの協力で30名が集まり、早朝6時30分一路東名、名神、北陸道を通って上越市へ出発しました。

全板大会の会場であるリージョンプラザに午後2時頃着きました。大会はいつもながら盛大に行われていました。そこでのアトラクションである玉川堂の絞りの実演は、念ながら終ってましたが、彫金の実演をやっていました。玉川堂の人達は、私達の質問に丁寧に応答してくれました。また、銅の表面に錫を塗るとき、温度は約八百度で、高くても低くてもうまくつかないとか、銅を焼き鈍をしたあと、洗う時に青酸カリで洗った方が銅の表面が変色しにくいとか、色々と興味深い説明をして頂きました。その他に一枚の銅板が次々に絞られて、やかんになっていく製作工程が展示してありましたが、これなど本当に感心させられました。

このあと会場をあとにして、宿泊場所である赤倉温泉に5時に着きました。夜には、酒やカラオケなどで親睦を深める事ができ、翌日は小布施、善光寺を通り無事岡崎に着く事ができました。

良い天気に恵まれ、とても楽しい旅行ができ、参加者の皆様も満足して頂けたかと思います。お忙しい中、参加して頂き役員一同感謝しております。

岡青　朝岡　昇

ホリデイタワー
建築現場見学

東三支部青年部17名は目下、豊橋市で建設中のホリデータワーを見学した。高さ112m、深さ10.5m（地上31階、地下2階）規模の大きさもさる事ながら綿密な施工計画、無駄のない工法、材料、工事使用機械等、又建設業という仕事を離れても計算された基礎構造は特に興味深かった。地下10.5mの下5mの安定した砂利層に基礎コンクリートを打ち、その下20数mの軟弱な泥層の又その下の岩板に12㎜のワイヤー4本編んだワイヤー64本で固定し、この高層建築物を支えているという事だ。参加者一同大変思い出深いことを経験した。

東三　S・H記

地引網とバーベキュー大会

東三支部では、6月3日午前8時集合。昨年同様表浜谷ノ口海岸に於て行う予定でしたが、天候は良かったが昨日からの低気圧の為海が荒れ船が出せず地引網の方は残念ながら出来なかった。楽しみに来た人達はガッカリしていた。でもバーベキューの仕度がしてあったので組合長の挨拶で始めました。みんな家族連れが多く、海にたわむれ、又青年部が準備した宝さがしなどが行われ、子供達は大喜びだった。大人はビール、酒など飲みながらカラオケ等で日頃のストレスを発散し、12時過ぎ解散した。

東三　脇坂

好感度？

驚見　収

八年前三重県伊勢市で全板大会が開催され、全国から五千名の組合員が参加した。私も例年参加しているので、この時もお伊勢参りをかねて参加した。伊勢市には、内宮・天照大神、外宮・豊受姫神がお祭りしてあり総称して伊勢神宮と呼ばれ皇室の祖神として古来から崇拝されて来た。信者は全国に広がり、お伊勢講などが組織され参拝が絶えない。全板大会に全国から組合員が集った。この時に思った事だが前を見ても後を見ても右を見ても左を見てもひと目で、この人はブリキ屋だ、板金屋だと判ったものだ。ネクタイを締めてスーツを着ていても、また揃いのブレザーでかっこ良く決めていた支部もあったが、やはりどことなくブリキ屋であった、と言うより職人であると言うのであろうか。顔は黒く手はごつい、それと背を丸めて歩いていたように思う。ネクタイを締めていてもどことなくぎこちない。一般の参拝も沢山歩いている中で遠くからでもはっきり判るのである。神宮参拝も兼ねての参加から年輩の組合員が多かったからかも知れないが……。しかし最近では拍子木等はあまり使わなくなり殆が機械加工となり釘を打つにもエアーネイラーで打つとか、とにかく機械力が多く使われるようになり、は楽に、指もしなやかになってきたのではないか。重い物を持ち上げるにも機械とか工具に工夫がされ以前より力を必要とする事が減った。又長尺加工品やメーカーの既成品の使用が多くなり、取り付け屋的なところが少なからずあるようだ。そんなこんなで作業する姿勢も以前よりよくなったようだ。近頃は会合に出ても全板大会に行ってもネクタイを締めスーツを着ているようになった。初めて会った人の第一印象は、好感度で決まり、それは身なり、言葉使いではないかと思う。作業現場でも制服に身を固めヘルメットは言うに及ばず安全靴に安全ベルトといった具合いである。街で見かける電力会社の作業員やガードマンのようないでたちである。高い所での作業は、している本人より下で見ている方が恐く感じるものだ。作業現場の印象をよくするのは整理整頓と、身なりではないか。こんな事を一つでも出来るところから取り入れて実行して行かなければ、危険、きつい、汚いと言われる所謂3Kで業界全体のイメージがちっとも良くならない。私も作業用の制服を着て安全靴を履き（最近ではスニーカータイプのものがある）現場ではヘルメットを着用するようにしている。又遊びにも帽子を被るように務めてる。日本人男性はあまり帽子を被らないようだが、外人は特にヨーロッパの人は帽子を愛用しているように思う。このことは私自身のイメージを変えようとしているのである。

6月14日名古屋南公共職業安定所管内の来年度の中学、高校卒業生の求人説明会があった。私も説明を聞いてきた。7月2日から書類の受付が始まるが、言えることは今では給料は余り格差が無いが福利厚生面で大きな会社と対等には出来ない、労働時間、有給休暇。四週六休制が当り前になってきているのだ。因に同職安が受け持つ中学校40校で平成3年3月卒業生一万余名の内男子就職希望者238名、高校23校一万三百余名の中男子就職希望者1563名、併せて一八〇一名の男子就職希望者のうち何名の卒業生を板金業界へ迎えられるか？魅力あるとまで言えなくとも手に職がつき誇りある職業であることをPRしなければならない。それには街で見かけたときの印象をよくし、かっこよくすることから始めなくてはならないと思う。

つごも会

「つごも」最近あまり聞かなくなった言葉だが、我々の仕事仲間で月末に集まり、忙しい時応援してくれて有難うの意味も込めて飲食会をしている。そしてその会を「つごも会」と名付け、和気あいあいの時を過している。いつの日か誰ともなく慰安旅行に一度行こうという話になり、そうした事はすぐにまとまった。6月3日4日と下呂温泉へ一泊で行く事に決まる。ホテルの送迎バスを利用。下呂までお互に気心が知れた者同志なので賑やかな道中となる。名所見学も、合掌村一ケ所だけにして、全く無理のない行程で文字通りの慰安旅行であった。

中川・港　福田

平成2年度2級建築施工管理技術検定試験について

(1) **申込受付期間**　平成2年7月27日㈮～8月10日㈮
申込みは簡易書留に限り、締切日の消印のあるものまで有効。

(2) **試　験　日**　平成2年10月21日㈰（学科試験・実地試験）

(3) **受　験　料**　学科・実地試験　8,100円
実　地　試　験　4,050円

(4) **試　験　地**　名古屋

(5) **申込書類の提出先及び問い合わせ先**
〒105 東京都港区虎ノ門1－25－5　第34森ビル内
財団法人 建設業振興基金 試験研修本部　電話 03 －502 －6131㈹

(6) **申 込 書 類**　学科・実地試験受験申込者
① コンピューター入力票　② 受験申請書　③ 住　民　票（本籍地記載のもの）
④ 写　　真　⑤ 卒業証明書　⑥ 資格証明書
㈱ ①から④までは、受験申込者全員が必ず提出するものです。
また、⑤、⑥は各々該当者が必ず提出するものです。

(7) **「申込用紙及び受験の手引」の取扱い（学科・実地試験受験申込者用）**
「申込用紙及び受験の手引」　1組　500円
1組　675円（送料込）
名古屋地区は中部建設協会で、6月27日から取り扱います。
（社）中部建設協会　〒460 名古屋市中区丸の内3－5－10 住友商事丸の内ビル
電話 052 －962 －9086

(8) **受 験 資 格**

二級

学歴	実務経験年数	
	指定学科	指定学科以外
大学（旧大学の卒業者）	卒業後1年以上	卒業後1年6ヶ月以上
短期大学・5年制高等専門学校（旧専門学校の卒業者）	卒業後2年以上	卒業後3年以上
高等学校（旧中等学校卒業者）	卒業後3年以上	卒業後4年6ヶ月以上
その他の者	8年以上	

注）受験種別が「躯体」または「仕上げ」の場合、職業能力開発促進法による技能検定合格者（該当職種に限る）は、上記にかかわりなく受験できます。

※ この試験は建設業法第27条による技術検定制度に基づき(財)建設業振興基金が実施します。
受験の手続きは受験予定者各自にて必ず行って下さい。

おしらせ

県板事務局の夏季休暇

日頃は、組合事務にご協力賜り有難うございます。

県板事務局は

8月13日（月）から
8月16日（木）まで

休ませていただきますので、よろしくお願い致します。

▼連絡事項はFAX 052－732－1733

国勢調査にご協力を！

十月一日、全国一斉に国勢調査が行われます。この調査は、大正九年から五年ごとに行われ、十五回目に当たる今回は、特に二十一世紀の日本を考える基礎づくりという重要な意味があります。調査結果は、国や都道府県市区町村が、これからの行政を考えていく大切な資料となり、私たちの暮らしのさまざまな分野で生かされていきます。赤ちゃんからお年寄りまで日本に住んでいるすべての方が調査の対象となります。九月下旬に、世帯ごとに調査票を配布します。

アパートなどに一人暮らしの方、下宿している方は、未成年でも学生でも、世帯主としてご記入ください。調査票にある質問は二十二項目。お答えいただいた内容は、統計以外の目的に使用することは法律で固く禁じられています。ご安心の上、ありのままをご記入ください。

調査票は後日、調査員が集めに伺います。外出がちな方は家にいらっしゃる日をお伝えください。

皆さんのご協力をお願いいたします。

組合員のための 福祉共済制度です ぜひご加入を!!

愛知県板金工業組合　理事長　平野　弘

組合独自のグループ保険を発足させて組合員の皆様に加入をお願いしていることはすでにご承知のとおりです。

私共の業界は何時不慮の災害にあうか解りません。自分のためもさることながら、家族のためにも安全保障をしておいて下さい。

皆さんの理解ある御賛同で一口でも多く更新・加入していただき、この制度を確立していきたいと願っております。

特長

- 安い掛金で大きな保障がえられます。
- 病気死亡・災害死亡はもとより不慮の事故による傷害および入院も保障します。
- 遺族に対し、長期生活資金として年金を支給することもできます。
- 一年更新ですから、毎年加入コースの見直しができます。
- 一年ごとに収支計算を行って、剰余金が生じた場合には一定の基準により配当金としてお返します。

必要に応じたコースをお選びください

保障内容と掛金（単位：円）

加入コース		1口		2口		3口	
保障内容	死亡・高度障害保険金	300万円		600万円		900万円	
	災害死亡保険金	400万円		800万円		1,200万円	
	障害給付金	100万円～10万円		200万円～20万円		300万円～30万円	
	災害入院給付金	1日につき1,500円		1日につき3,000円		1日につき4,500円	
月額掛金（概算）	ご加入年齢範囲	男	女	男	女	男	女
	15 ～ 35歳	784円	631円	1,568円	1,262円	2,352円	1,893円
	36 ～ 40歳	889	769	1,778	1,538	2,667	2,307
	41 ～ 45歳	1,087	871	2,174	1,742	3,261	2,613
	46 ～ 50歳	1,420	1,027	2,840	2,054	4,260	3,081
	51 ～ 55歳	2,011	1,258	4,022	2,516	6,033	3,774
	56 ～ 60歳	2,761	1,546	5,522	3,092	8,283	4,638
	61 ～ 65歳	3,853	2,140				
	66 ～ 70歳	5,944	3,265				

2口以上ご加入の場合、死亡・高度障害保険金等の全部または一部を年金の方法で受け取ることができます。

編集後記

先輩諸氏が、育てはぐくんで来られた愛知県板が創立25周年を迎え、今や青年期のやる気満々の若者の様に、時代のニーズに見合った組合作りと事業活動を精力的に進めようとしている。

今回の特集号は25年を振り返って、愛知県板をささえて来られた各氏に、それぞれの時点での想い出や感想を投稿して頂いた。各氏には今後共愛知県板の成長を見守り続けて頂く事を願うと共に、先輩の築き上げて来られた愛知県板を組合員一人一人が自覚と行動で資質と地位向上に向け一層の努力をされる事を願うものである。

梅雨の季節6月にしては気温が30度を越す真夏日が多かった。これも地球温暖化現象の一端なのだろうか。しかし、この二、三日、梅雨空に戻り小雨に洗われた「あじさい」の花びらが見事な色合いを見せてくれている。

6月27日（水）小雨
241号　編集会議
委員　7名　出席
午後6時終了　(S)